

2015年4月の金融経済概況のポイント

—— 主に3月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 4月も、景気について「基調的には持ち直している」との判断を据え置きました。消費税率の引き上げから1年が経過しましたが、項目別には、観光が好調を維持している一方、個人消費などでは改善の動きに鈍さがみられ、全体として前月までと大きな変化はありませんでした。
 - 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。
 - 項目別にも前月と判断の変化はありません。

■個人消費の動向

- 3月の大型店売上高は、前年の3月が消費税率引き上げ前の駆け込み需要により高水準（前年比+14.4%）となったこともあって、同▲13.5%となりました。3月は前年の動きがイレギュラーであっただけに、前年比で個人消費の基調を判断するのは難しくなっています。因みに、前々年の3月と比べると▲1.6%となります。
- 加えて、3月には東神楽や旭川駅前に大型店が新規にオープンし、多くの来店客を集めました。未だスタートしたばかりで、個人消費全体にどのような影響を与えるかは、もう少し様子をみないと分からないと思われます。
- このように、個人消費をみるうえで色々な要因がある中で、全体としてしっかりと回復してきたと判断できる材料は十分には揃っていない状況です。新規出店の動きがある中で、今後、全体として個人消費のパイが増えていくのかどうか、注目してみたいと思います。

▼大型店売上高

						—— 前年比、%		
14/1月	2月	3月	4~6月	7~9月	10~12月	15/1月	2月	3月
+0.0	+4.6	+14.4	▲4.0	▲0.7	▲2.5	▲0.6	▲2.7	▲13.5

■観光の動向

- 3月の観光客は、2月に比べると減少しましたが、中国人観光客を始めとして引続きインバウンド（訪日外国人旅行者）に支えられて、道北の観光は概ね好調を保っています。

■公共投資の動向

- 3月の公共工事請負金額は、前年比▲24.7%と減少し、14年度合計でも高水準の前年に比べて約1割の減少となりました（▲10.2%）。今年度は、（前年度）補正予算の減少から、「公共工事はさらに減少するのではないか」との声が多く聞かれるなど、先般公表した3月短観においても建設業界では厳しい見方となっています。

■今年度の収益見通し

- 3月短観における道北企業の今年度の事業計画をみると、前年度の減収・減益から増収・増益に改善する見通しとなっています（売上高前年比+1.5%、経常利益同+41.6%）。
—— 「販売価格判断」が上昇超を続ける見通しであることから、企業が販売価格を引き上げていく方針にあることが窺われます。

■今後のポイント

- 今年度の道北の景気を展望する上では、今のところ、良い材料と懸念材料が入り混じっているように思われ、「景気は回復の方向にあるが、現状では回復のテンポは緩慢」というのが景気の実態だとみています。

【良い材料】

- ・インバウンドを中心に観光が好調
- ・雇用環境が引き締まっている
- ・企業では増収・増益見通し

【懸念材料】

- ・公共投資が減少見通し
- ・短観の業況判断を始めマインド面が弱い

- こうした中で、新規出店や既存店のリニューアルなど、「売る側の工夫」がみられる個人消費について、回復本格化に繋がっていくのかを含め、上記の材料が、景気にどのような影響を与えていくか、引続き、注意深くみていきたいと思えます。

以 上

